

熊本大学で教鞭を執られた書道教官について

神野 雄二

熊本大学また前身の熊本師範学校で教鞭を執られた書道担当教官の人と業績について概略述べる(1)(2)。熊本大学での書道教育の歴史を振り返り、今後の書写書道教育や研究の在り方を考える一助としたい。紙幅の関係上至らぬ点もあろうかと思うがお許し願いたい。また今後、書写書道教育の発展に寄与した人たちの何らかの顕彰に努めたいと念願している(3)。

尚、今回は専任の教官に限ったが、多数の非常勤講師の先生方に熊本大学書道の発展にご尽力いただいたことは言うまでもなく、心から感謝申し上げます。

以前、久米公先生(4)からの私信に、「熊本は、恩師井上桂園先生の教員養成に命をかけた地で、私にも知友の多い土地。斎藤・森山両先生への系脈の中で、数々の恩顧を頂いております。」(二〇〇三年六月二日)とある。また、二〇一四年度に書写書道教育の研究に関する著書の刊行を予定しているが、序文を頂いた加藤達成先生(元群馬大学教授 元文部省教科調査官 元佛教大書道教授)も熊本との関係が深い。熊本で書写書道教育が更に発展していくことを願うものである。敬称は失礼ながら略させていた

一、井上桂園(一九〇三—一九九七)(明治三六—平成九)

旧名若林政雄、字は文卿、桂園・耕心齋と号す。岡山県吉備郡蘭村(現倉敷市真備町市場)生まれ。

西園尋常小学校に入学した六歳から習字を習い始め、七歳の時「中国民報社」(山陽新聞社の前身)の書初め紙上展で入賞する。岡山県立矢掛中学校(現岡山県立矢掛高等学校)在学中、日下部鳴鶴先生の書に感動し、号を「桂園」と称した。「桂」は古代ギリシャの月桂冠、「園」は出身地の蘭村にちなんで名付けられたといわれている。

その後、日下部鳴鶴門下の丹羽海鶴先生の門に入り、岡山師範学校入学の後は大原桂南先生に師事する。大正一一年、史上最年少で文検習字科試験に合格、以来中央の各種書道展で次々と最高賞を獲得し、二〇歳代で中央書壇に確固たる地位を築いた。また、昭和六年、熊本師範学校と熊本女子師範学校の教諭として赴任。昭和一四年四月には広島高等師範学校の助教となる。その年八月からは、文部省の委嘱により国定教科書の執筆にあたる。さらに昭和二六年からは戦後の検定教科書の執筆。昭和二四年から新制広島大学教育学部教授、昭和四一年からは安田女子大学教授として数多くの人材を育てた。昭和二四年、教育書道の確立を目指して耕心書道界を発足させ、昭和二八年、教育書道誌「耕心」を

(作品1) (作品タイトル・釈文は後掲)

廬山仙人五老峯 喜天削出
金芙蓉露九色 秀色可掬
此山采石松 雪白待佳客

(作品2)

夫天地者萬物之逆旅 先陰峇
百代之過客而浮生若夢為歡
吳何出人東燭夜遊良有以也
沉陽暮日我以煙景大塊假武
以文章會桃李之芳園序天倫

心樂事李俊秀皆為惠運音
人詠歌歌慙康樂幽蘭朱己高
談轉積開瓊筵以坐蒼飛羽觴
而醉月不有佳佳何伸雅懷如
詩不成罰依金苔酒斝

吾妻早稲子月序
村田吉四郎

創刊する。日本書道教育研究会顧問、全国大学書道学会会長、日本書道教育学会名誉会長などの要職を務める。昭和五四年、春の叙勲で勲三等瑞宝章を受章。平成七年、広島大学名誉教授に就任。平成九年（一九九七）一月、九四歳で没す。
著作は、学書の専門書や習字教科書等多数。作品集に、「井上桂園書業展」（財団法人筆の里振興事業団、二〇〇一年四月）があり、井上桂園著作目録、年譜が充実している。

二、斎藤鶴跡（一九〇六—一九九七）（明治三九

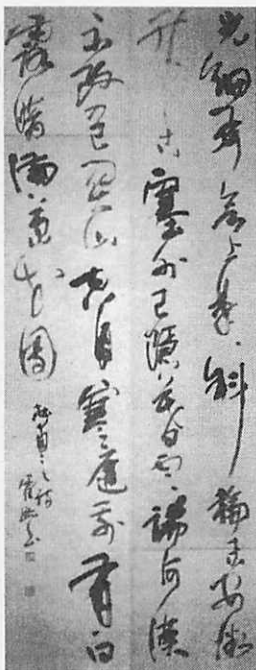
—平成九）

名は勝治、鶴跡と号す。熊本市呉服町生まれ。
熊本県第一師範学校本科一部卒業。昭和七年文検習字科試験に合格。熊本県第一高等女学校教諭、熊本県師範学校教諭、熊本師範学校教授を歴任する。昭和二五年、熊本大学講師、同四五年教授、同四七年退官。

作品集に、「鳥跡集」（一九八二年九月）、「斎藤鶴跡先生遺墨展」（一九九九年一月）がある。硯心会（熊本大学書道部OBOG会）熊本大学書法研究会（熊本書道教室）主催による遺墨展を、アートスペース大宝堂において、平成一一年一〇月二〇日〜二五日まで開催する。

作品集「斎藤鶴跡先生遺墨展」に掲載された「ご挨拶」の「反古の山が出来る程書きましたが、作品らしいものが何点あるか、

(作品3)



誠にお恥ずかしい次第です。今後ともこの苦しみは続けなければならぬと思っております。」は、先生の書道に対する姿勢が端的に表されている。

また清和書道会を起こし活動する。会名は井上桂園から頂いたものである。更に月刊雑誌『清和』を発刊し書道の普及と発展に尽くす。熊本県文化懇話会「芸術功労者」の顕彰を受けている。平成九年（一九九七）五月、九〇歳で没す。

著書に、文徵明の『草書千字文』（日本習字普及協会、一九八〇年）がある。

三、森山淡草（一九三五—）（昭和一〇年—）

名は秀吉、淡草と号す。久留米市生まれ。六歳から玉名市で育つ。

作品集に『熊本大学退官記念森山淡草論・作品集』（熊大書法研究会、二〇〇一年二月）、『森山淡草書作展—還暦を迎えて—』（一九九五年五月）などがある。論文は書写書道教育、書学・書道史に関するものなど多数。

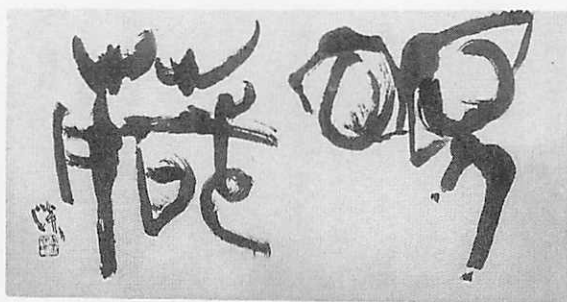
先生は特に、自らが育てられた硯友会（熊大書道部）の指導に情熱を注がれ、特に「耕心書道会全国展」（井上桂園主催）と、熊日展に学生の活躍を導かれた。

(作品4)



略歴は、『熊本大学退官記念森山淡草論・作品集』を追加修正の上転載する。

- 一九五四年 玉名高等学校卒業
- 一九五八年 熊本大学教育学部・国語科卒業
- 一九五八年 天草郡河浦町立富津小学校教諭
- 一九六三年 熊本県立玉名高等学校教諭
- 一九七二年 熊本大学に採用（教育学部、書道、書道教育）
- 一九八一年 全国書写書道教育学会でシンポジウムパネラー
- 一九八九年 熊本大学教授（教育学部）
- 一九九三年 教育学部付属幼稚園園長併任（一九九五年三月まで）
- 一九九三年 熊本県国公立幼稚園園長併任（一九九五年三月まで）
- 一九九三年 熊本県社会教育委員（一九九五年三月まで）
- 一九九七年 全国大学書道学会・全国大学書写書道教育学会を開催（当番校）
- 二〇〇一年 熊本大学退官
- 一九八八年 日展入選（篆刻）
- 一九九二年 日展入選（篆刻）
- 一九九八年 日展入選（漢字）
- 二〇〇三年 日展入選（漢字）



(作品5)



(作品6)

一九九五年 還暦記念森山淡草書作展（県立美術館ギャラリー）

一九九八年 森山淡草（書）石原昌一（彫刻）二人展（アートギャラリー）ゆうき）

ラー

二〇〇一年 退官記念森山淡草書作展（県立美術館ギャラリー）

二〇〇五年 森山淡草古稀書作展（県立美術館ギャラリー）

二〇〇六年 熊本市現代美術館主催「森山淡草展」（熊本市現代美術館GⅢ）

術館GⅢ）

二〇〇七年 熊本市現代美術館主催「アルスク・クマモト」（選抜展）

に出陣（熊本市現代美術館GⅢ）

二〇一四年 森山淡草傘寿記念書展（県立美術館ギャラリー）

【注】

1、「五校七〇年史」（五校同窓会、一九五七年一〇月）

2、「熊本大学六〇年史」（熊本大学、二〇一四年）

3、「書道を隆盛に導いた大学教授たち」（吉井町多胡碑記念館、二〇〇四年一〇月）

四年一〇月）

4、久米公（東邨）（全国大学書写書道教育学会名誉会長、千葉大学教授、大東文化大学教授、四国大学教授などの要職を歴任、二〇一二年

没）、第二部教科教育史 第二章 書道教育史」（『百年史千葉大学教

育学部』、一〇〇〇年史刊行会、一九八一年一月）は、千葉大学の書

写書道教育の歴史を詳説する。

作品釈文

1、李白詩 廬山五老峰（井上桂園書業展）より転載）

2、李白詩 春夜宴桃李園序（井上桂園書業展）より転載）

3、杜甫詩 初月（斎藤鶴跡先生遺墨展）より転載）

4、観山醉月（斎藤鶴跡先生遺墨展）より転載）

5、眼蔵

6、無尽

（じんの・ゆうじ）熊本大学教育学部教授）